

美濃桃山陶に触れて

11月29日から12月3日、荒川豊蔵資料館を中心にイベント「随縁に集う」を開催しました。

可児市は国宝志野茶碗銘卯花塙を生み、人間国宝の陶芸家・荒川豊蔵が志野を復興させた美濃桃山陶の聖地です。この地を広く知ってもらうためのイベントが紅葉の時期に行われ、約200人が美濃桃山陶に触れる体験をしました。

第3回となる今回は、学芸員から作品や当時の生活について解説を受け、豊蔵の茶碗でお茶を飲むなど豊蔵の暮らしを再現する追体験をはじめ、さまざまな企画を行いました。

また豊蔵の旧宅では久々利保育園による茶会を開催し、園児が日ごろから学んでいるお茶の作法を披露。丁寧にお茶やお菓子を運んで、お客さまをもてなしました。



おもてなしをする園児



紅葉に彩られた会場周辺



倒れないように、そっとね

親子で楽しむ休日

文化創造センター・アールで、11月26日に子育て応援NPOフェスタが開催されました。

積み木ワークショップでは親子でまちづくりに挑戦。さまざまな色や形の積み木で作ったオブジェをつなぎ合わせ、世界に一つだけのすてきなまちが完成しました。

他にも子ども用雑貨やグルメの販売、お仕事体験などが行われ、会場はイベントを楽しむ親子の笑顔であふれていました。

秋の思い出を残そう

11月25、26日の2日間、鳩吹山の麓にある可児川下流域自然公園で、もみじ祭が行われました。秋の草木の葉を使ったしおり作りや、紅葉の中で楽しむお茶会など、さまざまなイベントが行われました。訪れた人たちは、鮮やかに彩られた公園を散策しながら秋の風景を楽しみました。

また今年は紅葉の植樹も行われ、将来さらに華やかな空間になることでしょう。



しおり作りを楽しむ来場者